

第2次袋井市総合計画 後期基本計画（最終案） について

令和2年11月
(企画財政部 企画政策課 企画係)

後期基本計画策定スケジュール（令和2年4～12月）

（R02.10.19更新）

年月	庁内作業・調整	会議・市議会等	分野横断型WG
R2年 4月	Step7 / 主な事業、取組別指標を整理、意見等を踏まえて再整理・素案作成	(中止・延期) 第4回審議会 / 諮問・素案協議 → 書面での意見聴取に変更	
5月	Step8 / 意見等を踏まえて計画を策定	(5/8) 計画(素案) 諮問 (市長→正副会長)	
6月			
7月			
8月	Step9 / 意見等を踏まえて計画案策定	(7/30) 第4回審議会 / 新型コロナ影響反映	
9月			(書面での意見聴取) 内容整理
10月	Step10 / パブリックコメント実施 (9月28日～10月27日)、意見等を踏まえて最終案策定	(10/1) 第5回審議会 / 案協議	第4回 / まとめ
		市議会 (10月※閉会中) / 案協議	
11月	Step11 / 最終案修正・確認	第6回審議会 / 最終案協議	
(11/16) 答申 (正副会長→市長)			
12月		市議会 (11月) / 最終案協議・議決	

本日

第5回総合計画審議会での議論

(日時) 令和2年10月1日(木)

午後6時30分～午後8時30分

(会場) 袋井市役所3階 301会議室

(内容) 第2次総合計画「後期基本計画」(案)協議

まちの将来像 活力と創造で 未来を先取る 日本一健康文化都市

政策1	政策2	政策3	政策4	政策5	政策6
子育て 教育	健康 医療 福祉 スポーツ	都市 環境	産業	危機管理 防犯 交通安全	協働 地域 歴史 文化 国際交流

(分野横断で取り組むべき考え方)

〇本市が掲げる普遍的理念の実現に向け、創意工夫と不断の努力を重ね、様々な新しい知見・技術を積極的かつタイムリーに取り入れ、各施策を継続的かつ柔軟にアップデートしていくとともに、分野を超えて様々な施策を連携・融合させ、総合的に取り組んでいく考え方

生涯活躍

ICT

市民の誇り

(意見等)

- 〇施策体系及び政策・取組、分野横断で取り組むべき考え方など、計画(案)は了。
- 〇分野横断で取り組むべき考え方による施策展開は、影の部分を見ながら進めていくことが重要。ICTの活用は様々な分野で利便を高めるが、一方で顔が見えるコミュニティでのつながりも大切にすべき。
- 〇自治体のプラットフォーム・ビルダー化は重要。IT化が進み生産性が高まると、時間に余裕が生まれるため、地域コミュニティの中で、縦だけでなく横で緩やかにつながりながら、いかにイノベーションで新しいものを生み出せるか、という価値観が大切になるのではないかと。ぜひ他自治体に先駆けて実現してほしい。
- 〇コロナ禍の影響でコミュニティや人と人とのつながりが薄くなってきており、こういう時こそ心を寄せ合う関係づくりが大事。住みやすいまちとは、人と人とのつながりが豊かで心が満たされるまちではないか。
- 〇計画をいかに学校や地域など、様々な場面で市民に分かりやすく伝えるか。そして、いかに身近なコミュニティなどで共創できる体制を創っていくか。計画の先にあるのは市民であり、目の前で困っている、不安な人がいる、というときに、ダイレクトに手を差し伸べることが、行政には求められているのではないかと。
- 〇スポーツを通じた地域活性化には、スポーツ界だけでなく産業など他の分野と関係を創ることが必要。
- 〇ICT教育による個別最適化と既存の教育効果、両方を組み合わせた効果の最大化を目指すことが大事。
- 〇市民力を発揮して、自助・共助をしっかりと確立し、流域全体でいのちを守るまちを創ってほしい。水害に対して脆弱であるからこそ、全県をリードしていくような気概を持ち、取り組んでほしい。
- 〇コロナ禍の影響で東京圏からの転出超過など、人の流れが変わっており、動向を注視していく必要がある。

後期基本計画（案）の構成と対応状況

分類	内容	前回からの対応（赤字部分）
資料3 序	第1章 計画の意義と特徴	全面更新（内容再整理）
	第2章 計画の構成と期間	変更なし（年号及び一部語句のみ修正）
	第3章 時代の潮流と取り組むべき方向性	全面更新（全体再整理、市が取り組むべき方向性を追記）
	第4章 市政に対する市民ニーズ	R2年度市民意識調査を反映
第1編 基本構想	第1章 基本構想策定の目的	変更なし（年号のみ修正）
	第2章 まちの将来像	変更なし
	第3章 まちづくりの基本目標	変更なし
第2編 基本計画	第1章・第1節 将来人口推計	全面更新（本文、人口推計・世帯数見通しなど）※目標人口は変更無し
	第1章・第2節 土地利用・将来都市構造	全面更新（袋井市都市計画マスタープラン（H30改定）を反映）
	第1章・第3節 財政計画	全面更新
	第2章 行政経営方針	変更なし（第2次行政改革大綱／計画期間：H28～R7年度）
資料4	第3章・第1節 施策体系	審議会等での議論を踏まえて（最終案）策定
	第3章・第2節 政策・取組	審議会等での議論を踏まえて（最終案）策定
	第3章・第3節 分野横断で取り組むべき考え方	WG及び審議会等の議論を踏まえて（最終案）策定
付属資料	策定体制・経過、政策別取組別指標	今後更新（指標については設定済）

計画（案）【前回】からの主な変更内容（全体）

全体

- 言い回し、語句、表現等を統一（分かりやすい言葉に変更）、難語に注釈を追加
- 数値等を最新に更新

序・第1章 計画の意義と特徴

- 本計画の策定背景や役割などを再整理

序・第3章 時代の潮流と取り組むべき方向性

- 時代の潮流に加え、本市が「取り組むべき方向性」を追記（全体を再整理）
- SDGsにおける世界、国、そして本市での考え方（日本一健康文化都市との関係性）を記述

第2編 基本計画・第1章 計画の主要指標 第3節 財政計画

- 財政計画を追加（財政課作成）

第2編 基本計画・第3章 施策別計画 第1節 施策体系

- 施策体系図を追加

政策2（健康・医療・福祉・スポーツ）

○現状と課題に「地域共生社会」の実現を目指すことを追記（下記分野横断と整合）

分野横断で取り組むべき考え方（全体）

○基本的な考え方に、施策展開にあっては「光の部分」だけでなく、「影の部分」を予見して取組を進めていくことを追記

○3つの考え方の末尾を「～すること」に修正

○取組内容を再整理した上、項目を設定

分野横断で取り組むべき考え方（①誰もが個性と能力を発揮し活躍できること）

○背景に、「市民力」が発揮される一例として「災害発生時」を追記

○取組内容に、「すべての人を包括的に支える仕組みづくり」を追記（上記政策2と整合）

※下線は第5回総合計画審議会における審議会委員の意見を反映したものの

政策 1 ・ 取組 2（未来に輝く若者の育成）

- インクルーシブ教育の理念である「共生・共育」を追記
- 協働の考え方や役割の自（市民・起業）に、家庭教育への取組を追記

政策 2 ・ 取組 2（いきいきと暮らせる健康長寿の推進）

- 目的を再整理し、より具体的な内容（地域包括ケアシステムの充実推進）に修正

政策 2 ・ 取組 3（安心できる地域医療の充実）

- 目的を再整理し、より具体的な内容（地域医療体制の確保及び医療・介護の連携深化）に修正
- 現状と課題及び基本方針にACP（アドバンスケアプランニング）の推進を追記
- 現状と課題に、在宅医療と介護を支える医療・介護分野の多職種連携について追記

※下線は第5回総合計画審議会における審議会委員の意見を反映したもの

政策 2 ・ 取組 4（自分らしく暮らせる障がい者支援の推進）

○現状と課題及び基本方針に、身近なところで相談できる体制の整備に加え充実させることを追記

政策 2 ・ 取組 5（誰もがスポーツに親しむまちづくりの推進）

○基本方針に、スポーツを通じた地域の活性化に向けて、企業や各種関係団体と連携することを明記

政策 3 ・ 取組 1（暮らしたくなる都市拠点の創出）

○現状と課題に、都市拠点や地域拠点等の拠点間連携強化の手法（既存の道路・交通ネットワークの維持、向上、ICT等によるネットワークの構築）を明記

政策 4 ・ 取組 2（戦略的な観光の推進）

○現状と課題に、コロナ禍による外国人旅行者の激減を追記

○指標変更（観光案内所来場者数から外国人宿泊客数（観光関係）に変更）

※下線は第 5 回総合計画審議会における審議会委員の意見を反映したもの

政策4・取組4（魅力的な商業の振興）

○指標変更（商業の指標を経済センサス活動調査結果から商工団体実施の経営革新計画承認件数等に、消費者相談件数から空き店舗件数に変更）

政策5・取組1（万全な危機管理体制の構築）

○取組方針に、感染症に対応する計画的な備蓄を追記

政策6・取組3（共生社会の確立）

○現状と課題に、相互に人権を尊重することを追記

※下線は第5回総合計画審議会における審議会委員の意見を反映したもの

○計画全体を分かりやすくコンパクトに再編

(取組数：27→24、基本方針数：121→86)

⇒現実に即し、より実効性があるものとなるよう整理

○時代の潮流に本市の取り組むべき方向性を新たに追加

⇒時代の潮流への本市の対応を明確化

○SDGsを計画内に取り入れ

⇒日本一健康文化都市との関係性を整理した上、政策・取組に17の目標を配置

○新型コロナウイルス感染症の影響を全体に反映

⇒健康づくり、地域医療、産業、危機管理など全般にわたり反映

○「分野横断で取り組むべき考え方」を新たに追加

⇒政策・取組に基づく施策展開にあたり、必ず持つべき共通した3つの考え方を設定、分野横断的に取り組むべきICT活用やシティプロモーション、地域共生社会の実現等の取組を位置づけ

第2次袋井市総合計画 後期基本計画（最終案）施策体系

基本構想

まちの将来像

活力と創造で 未来を先取る 日本一健康文化都市

将来像の実現に向けた3つの視点

心と体の健康

都市と自然の健康

地域と社会の健康

まちづくりの基本目標

子どもがすこやかに育ち
みんなが健康で幸せに暮らすまち

活力にあふれ 潤いと
安心・安全を実感できるまち

つながりと交流を大切にし
豊かな市民力で未来を拓くまち

基本目標の達成で
実現するまちの姿

子育てするなら袋井市

定住するなら袋井市

市民力なら袋井市

後期基本計画

政策
(6)

政策1

政策2

政策3

政策4

政策5

政策6

子育て 教育

健康 医療
福祉 スポーツ

都市 環境

産業

危機管理
防犯 交通安全

協働 地域 歴史
文化 国際交流

取組
(24)

取組
(2)

取組
(5)

取組
(5)

取組
(4)

取組
(5)

取組
(3)

基本方針
(86)

基本方針
(8)

基本方針
(18)

基本方針
(16)

基本方針
(15)

基本方針
(18)

基本方針
(11)

分野横断で
取り組むべき
考え方
(3)

- ①誰もが個性と能力を発揮し活躍できること
- ②利便性に優れ安全で質の高い暮らしができること
- ③市民が誇りを持ち楽しく暮らせること

※政策・取組に基づく施策展開にあたり
必ず持つべき共通した考え方

第2次袋井市総合計画 後期基本計画（最終案）の考え方

まちの将来像

活力と創造で 未来を先取る 日本一健康文化都市

来るべき「人生100年時代」「超スマート社会」「新型コロナウイルス感染症の影響」など時代の潮流を見据えて個々の施策を磨き上げ、着実に取組を進めていくとともに、本市が誇る「市民力」（互助の力）をはじめ、多様性やICTの積極的な活用に加えて、**「変革」と「共創」**の視点を計画推進の根幹に据え、誰もが生涯活躍でき、利便性に優れ安全で質が高く、市民が誇りを持ち暮らしの楽しさを享受できる「成熟したまち」の実現を目指す。



第2次袋井市総合計画 後期基本計画（最終案）策定のポイント①

（政策1）子どもがすこやかに育つまちを目指します

- 子育て環境の整備から充実にシフト
- こども園への移行推進（待機児童解消）
- 「幼小中一貫教育」による「自己有用感・自己肯定感」や「考える力」を育む教育の実施
- ICT等の活用による質の高い環境整備

（政策2）健康長寿で暮らしを楽しむまちを目指します

- 地域共生社会の実現に向けた取組を推進
- 人と人、人と社会のつながりを促進
- 全世代を通じた健康づくりの実施、受動喫煙防止
- 高齢者の見守りや支え合う「互助」の推進とその仕組みづくりを中心とした取組を促進
- ACP（アドバンス ケア プランニング）の取組を推進
- 障がい者の就労マッチング支援を推進、相談体制の充実
- 企業や各種団体等との連携による「スポーツを活かしたまちづくり」を推進

（政策3）快適で魅力あるまちを目指します

- 住宅施策と空き家対策を一体的に取組推進
- 公園や水辺空間等の活用に向けて公民連携を推進
- 各家庭でエネルギーを創り、貯め、賢く使うライフスタイル（スマートライフ）を推進

（政策4）活力みなぎる産業のまちを目指します

- 超スマート社会到来を踏まえた対応を推進
- SNSの活用による観光の情報発信力強化、新技術活用
- 農業における消費者直販強化を推進
- 商業におけるICTを活用した販路拡大を推進

（政策5）安全・安心に暮らせるまちを目指します

- 地震、津波、原発から感染症までを含め、危機管理全般について総合的に対応する体制を構築
- 外水対策や洪水・土砂災害からの避難対策など風水害への重点的な取組項目を設置
- 河川流域全体で治水対策を進めていく「流域治水」の考え方を導入
- 袋井消防庁舎・袋井市防災センター活用による取組内容の充実、災害対応力の強化

（政策6）市民がいきいきと活躍するまちを目指します

- 地域づくり活動に向けた新たな人づくり、多様な参加・関わり方ができる環境整備を推進
- 女性活躍や多文化共生への取組、LGBTなど個々の属性や人権の尊重の取組を推進
- 生涯を通じた学びを推進

分野横断で取り組むべき考え方

- 全分野で「市民力」（互助の力）の積極的な活用を推進
- 全分野でICTの積極的な活用を推進
- あらゆる災害に強いまちづくり、都市の復元力・回復力（レジリエンス）強化
- シビックプライドの醸成を促進
- 共感を軸にしたシティプロモーションの推進
- 従来の地縁を基礎とした組織だけでなく、様々な主体が緩やかにつながる水平型のコミュニティの創出を推進
- すべての人を包括的に支える仕組みづくりを推進
- 地域資源や文化・芸術、スポーツを活かしたまちづくりを推進
- 行政の役割転換（様々な主体がつながる基盤創出）

分野横断で取り組むべき考え方及び各項目

（P a r t 1）誰もが個性と能力を発揮し活躍できること

- ・ 知識や経験を社会や地域に還元する仕組みづくり
- ・ 様々な主体が気軽に参加できる体制の構築
- ・ 水平型コミュニティの創出
- ・ すべての人を包括的に支える仕組みづくり ←今回追加

（P a r t 2）利便性に優れ安全で質の高い暮らしができること

- ・ I C Tの積極的な利活用
- ・ 地球環境にやさしいまちづくり
- ・ 都市の復元力・回復力（レジリエンス）向上
- ・ 自然災害や感染症等に備えるリスクマネジメント及び危機管理体制の構築

（P A R T 3）市民が誇りを持ち楽しく暮らせること

- ・ 地域資源や文化・芸術、スポーツを活かした自慢したくなるまちづくり
- ・ 「共感」を軸としたシティプロモーション、効果的な情報発信
- ・ 「様々な主体がつながる基盤」の創出

本日議論いただきたい内容

○今回で総合計画審議会も最終回となります。1点目として、現在までの審議を踏まえて策定しました第2次袋井市総合計画 後期基本計画（最終案）について、内容の確認をお願いします。

○2点目として、計画策定後、「どのように実効性を担保してこの計画を確実に進めていくか」について、次の2点を踏まえてそれぞれご意見をいただければと思います。

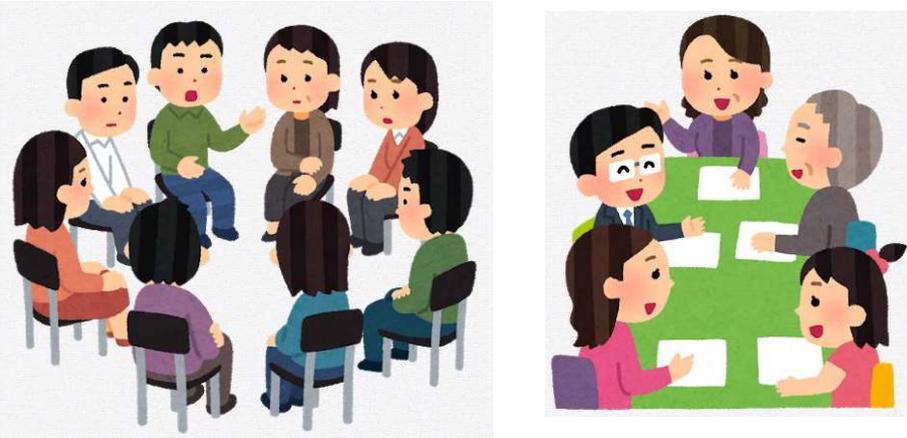
①年代や性別等を問わず、計画の内容を分かりやすく伝え、興味を持ってもらうにはどうすれば良いか。（周知方法）

②本計画の推進には、市民をはじめ、企業や各種市民団体など、様々な主体と共に取り組んでいくことが不可欠だが、それに向けて必要なことは何か。（共創に向けた取組方法）

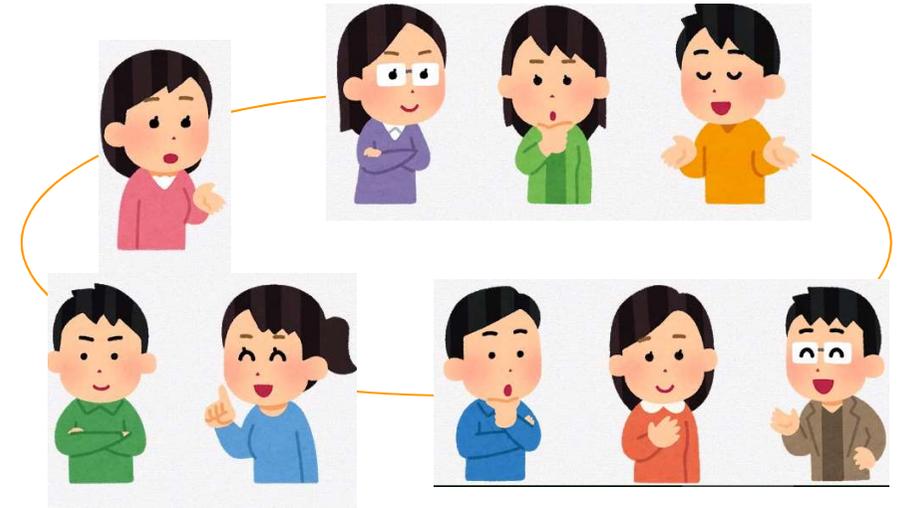
○前回いただいた様々な意見（次ページ以降）を参考に、具体的な手法等を交えた提案等をお願いいたします。

計画を確実に進めていくために必要なこと（前回審議会での意見）

コミュニティセンターや学校など
市民の身近な場所で周知・話し合い



様々な人が出会いつながる場所
（プラットフォーム）づくり



良い活動をしている人たちのところ
にお金が行くという仕組みづくり



学校の授業や夏休みの宿題でテーマ
を決めて取り組んでもらう



計画を確実に進めていくために必要なこと（前回審議会での意見）

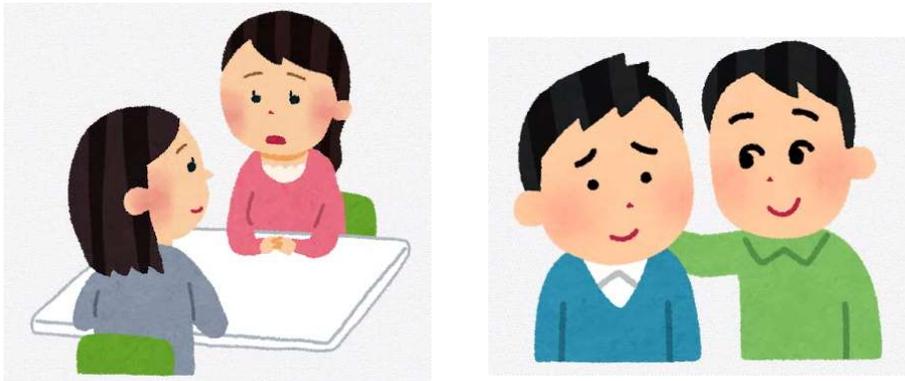
取組の核（プロデューサー）となる人の配置や大学等の専門機関との連携



スマートフォン等で簡単に伝わるキャッチコピー的なものを設定



目の前で困っている人に対し話を聴きダイレクト手を差し伸べること



まち・地域づくりに対して主体的に取り組む様々な担い手の育成

